各戸配布

川路まちづくり役員会便り　第17号

『豊かで活力ある安全安心な川路』の実現！　２０２１年（令和３年）１２月１５日

皆さんは 50 年後の川路の姿を考えたことがありますか？　「5 年 10 年先さえ不透明な中で、50 年先なんて！」とおっしゃる方が多いかと思います。恵那山トンネルが開通したのは今から 46 年前の 1975 年 8 月でした。伊那谷の夜明けと言われた恵那山トンネルの開通でした。これからそれ以上に伊那谷に影響のあるリニア新幹線の開通と三遠南信自動車道の全通が待っています。東京から 40 分で飯田に来れる時代は 50 年後の川路に大きな変化をもたらすと考えられます。リニア新幹線が開通しなくて、三遠南信自動車道が開通しなければ、50 年後の川路はそんなに変化は無いでしょうが、今回ばかりは違います。大きな変化は必ず来ます。それを見越して、50 年後の川路のあるべき姿を想像し、今後 10 年間の川路の基本的なまちづくりの方針を検討するのが「川路地区基本構想策定委員会」です。公募委員も含め、10 代～70 代の 58 名で構成されています。11 月 12 日に第 1 回の検討会がもたれ、10 年前の「川路地区基本構想」（いわゆるみどり本）の策定時のまちづくり会長の長谷部喜則さんと、編集委員長の関島雅直さんをお招きし、検討した当時の背景や苦労話をお聞きしました。第 2 回は 12 月 13 日に行われました。策定委員を 4 つのグループ（①住民共同による支え合い、②産業振興と若者定住、③安全安心・快適生活環境づくり、④歴史文化と川路を思う心豊かな人づくり）に分けて、「みどり本作成当時の 10 年後に目指す姿」と「これから 10 年後に目指す姿」の違いを検討して頂きました。目指す姿に関しましては、10 年前と今とで大きな違いは無いと思われます。しかし、10 年の年月の中で取り巻く環境は大きく変化しようとしており、目指す姿を実現するために具体的にどう進めるかは、今後しっかり検討していかねばならない課題です。特に「後継者不足で耕作放棄地が目立つ川路の農業を今後どうして行くのか？」「飯田市主体で進められた天龍峡一帯の観光面の環境整備がほぼ終了しようとしている現在、天龍峡の観光を今後どのように活性化させていくのか？」この二つの課題は川路の将来にとって大きな課題であり、20 年後、50 年後を見据え今しっかりと検討しておく必要がある課題と考えております。この二つの課題は特殊な課題であり、検討するメンバーも専門的知識又は課題に関係する取り組みの深さが要求されます。そこで、委嘱策定委員の中からメンバーを選定し、さらに関係する方から検討メンバーを選定して、分科会として検討を進めたいと考えております。委員の委嘱状が届きましたら、是非ご協力をお願いいたします。

「２８Ｍ道路から見た川路５区の水田風景」
川路の貴重な田園風景を残して欲しいと、多くの方が声をそろえて要望しますが、稲作の収益性からいつまで残せるか大きな課題です。要望する私たちは、川路のお米を高くても買う位の気構えが必要かもしれません。

「本年度も実施が決まった天龍峡ナイトミュージアム」
天龍峡観光も大きく変わろうとしています。まちづくりとしてどの様に参画して行くか、これも課題です。

第２回「サロンまちづくり」、お客様をお迎えし行われました

２度目となる「サロンまちづくり」が、１２月10日に開催されました。今回は、特別ゲストとして元飯田市産業経済部長の高橋寛治さんをお迎えし、「総有」という概念についてお伺いしました。高橋さんは産経部長を退職後、請われて和歌山県の高野町の副町長として務められ、現在は飯田市に住みながら清内路や高森町のまちおこしのお手伝いをされているとのことです。産経部長時代、本町の再開発事業やリンゴ並木のＳ字道路を手がけた方です。その際の理念は、明治初め版籍奉還で武家地の払い下げを受けた飯田藩士が各土地を全員の所有として、賃貸利益を道路工事など地域のために有効利用した「総有」という考え方だそうです。

高橋寛治さんを囲んで談笑する参加者の皆さん

更にその考えを、かわじ土地管理組合設立時に提唱されたとのことです。今後、川路の様々な取組みに際し、ご指導頂きたいと考えております。

次回は１月１０日の祝日の午前１０時からです。お勤めの方も参加できる様に休日にしました。是非ご参加下さい。

「かわらんべ河川敷菜の花畑」に説明用看板を設置しました

かわらんべ河川敷の菜の花畑と幾島館跡の菜の花畑に右写真の様な説明看板が設置されました。飯田市のムトス飯田の補助を受けて、小木曽看板に格安に制作して頂きました。設置は川路菜の花愛護会と天龍峡アヴニール倶楽部の皆さんの協働作業で行われました。今年９月には、竜峡中学とシニア大学４１期生の皆さんも加わって頂き、種まきを実施しましたが、一部砂地を除き順調に芽が出て育っております。昨年の集中豪雨で河川敷は７０ｃｍもの土砂が堆積してしまいました。肥沃な土砂だから大丈夫、芽が出ると竜峡中学生徒に種をまいて頂きましたが、白い砂地は残念ながら芽が出てきておりません。天竜川の氾濫で肥沃な土壌となり日本三大桑園になったと看板には簡単に記載しましたが、現実はそんなに簡単では無かったと思われます。今後２月頃に白い砂地部分には移植を予定しております。来年４月にはきっと綺麗な菜の花畑を楽しんで頂けると期待をしております。

菜の花愛護会と天龍峡アヴニール倶楽部の皆さん

今回はムトス飯田の補助を受けて、天竜峡派出所前に「ネズミサシの説明用看板」と姑射橋歩道橋下の「ポットホール説明用看板」も設置しました。機会がありましたら是非ご覧下さい。